

平成22年度 府立茨木西高等学校 学校評価報告書

1 めざす学校像

生徒の学習意欲を高め、学力向上のための努力を惜しまない学校。
地域に貢献し、地域とともに歩む学校。
生徒の志のある進路実現のための後押しをし、中堅大学に進学実績を持つ学校。

2 本年度の教育目標

1. 志高い進路目標の実現を図る
2. 規範意識を高め、自立した生徒を育てる
3. 地域とのつながりを大切にし、地域貢献を果たすとともに、地域の力を取り入れる
4. 校長を中心とした機能的な学校運営体制を構築する

3 本年度の取組計画及び自己評価

| 領域 | 具体的な取組計画 [平成22年 4月 記入] | 取組状況の自己評価 | 今後 進めたい取組み |
|-----------|---|--|--|
| (1) 学習指導等 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業公開による、授業研究を促進し、わかる授業、魅力ある授業をより実現する。 2. 生徒への講習や、個別指導により高い進路目標を実現する。 3. 生徒の学習支援に学習サポーターを導入・活用する。 4. 授業評価を各教科で取り入れ、教員の授業改善に生かす。 5. 自発的な学習意欲喚起のため、大学との授業提携を進める。 6. 新教育課程を検討する。 7. 進学データの蓄積と分析を行い、的確な進路指導を行う。 8. 学校外の力を活かし、生徒の学習意欲を高める。 9. 生徒の学力を保障するため、適切な指導を行う。 10. 学校教育自己診断を行い、その中の意見データをもとに授業を中心とした学校経営の改善を図る。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 7回7日間の学校公開を実施し、「大阪の教育力向上プラン」に基づく授業公開、初任者の公開研究授業も行った。夏期休業中に予備校主催の「教師力向上セミナー」などに3名の教員が参加し授業力向上の研修を受けた。 授業公開・研究授業の実施状況等 *「大阪の教育力向上プラン」に基づく授業公開 (6/23, 2/7) * 初任者の公開研究授業 (6/23, 2/7) 2. 夏期休業中に3年進学希望者対象の講習を実施した。 ・代々木ゼミ講師による土曜英語講習を3年対象5日間(9/18, 25, 10/2, 9, 16)、1・2年対象5日間 (1/15, 22, 29, 2/12, 19) の計10日間実施した。 ・夏期講習を3年進学希望者や1・2年を対象に各教科個別実施した。 3. 大学のインターンシップ制度の利用や本校卒業生の協力により学習サポーターを自習室に配置した。 学習サポーターの実施状況等 * 学校インターンシップの活用 (立命館大学・関西大学) * 大阪大学「総合演習」との連携を見据えた学生ボランティア活動など * 本校卒業生による学習サポート (大阪工業大学・関西外国語大学) 4. 各教科・授業で授業アンケートを実施し、各教員の授業改善に取り組んでいる。結果をまとめ総括したものを生徒へのアドバイスとともに配付した。全校クラス実施を行ない教科科目別の総括 (講評・アドバイス) を作成した。 5. 追手門学院大学、梅花女子大学との高大連携事業の推進を行った。大学の授業を登録受講した。13名が登録し10名が単位認定を受けた。大学が設定する高校生向け各種集中特別授業に登録参加した。 6. 新カリキュラム案を検討・作成した。 7. データ蓄積のため、実力テスト有効活用に向け、準備を進めている。 8. 上記5以外では同志社大・立命館大・関西外大等の設定する高校生向け短期集中講座などに多くの生徒が参加した。その後進学を目指す者も出た。 ・上記2にあるように外部講師による学年別象土曜英語講習を実施した。 9. 生徒との随時の懇談、年間2回の保護者懇談を実施し、生徒・保護者との意思疎通を図った。 10. 学校教育自己診断のためのPTを運営委員会の中に設置し診断アンケートの作成・実施・解析・回答公表を行なった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教員相互の授業公開・研究授業を行い、授業力の向上をさらに図る。 ・授業改善に向けた授業評価を定例化・定着を図る。 ・高大連携事業を拡大・充実させ、各大学との連携を強化させたい。 ・生徒の学力実態を正確に反映できる進路指導を研究する。 ・府の English Frontier High Schools プロジェクトに参画し英語教育環境を向上させるとともに指導法を研究する。 ・English Roomを設置し英語教育の拠点となる教室を確保する。 |
| (2) 生徒指導等 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 交通安全教育の推進校として、交通ルール遵守、自転車通学のマナーを生徒に指導徹底する。 2. 遅刻件数の前年度より減少をめざす。 3. 授業規律を確立するために始業チャイムを守る指導を徹底する。 4. 挨拶のできる生徒を育てる。 5. 部活動への加入率を7割以上をめざす。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 通学安全指導の実施状況等 *1年通学安全指導 (4/16)・通学安全指導 (6/19, 11/10) ・地元自治会、警察、PTAの協力を得て、年間2回の一斉通学安全指導を行った。また、教員による下校指導なども随時実施した。 ・1年対象に自転車の安全指導を行った。 2. 前年度より総遅刻件数 12%減 ・ロッカー前遅刻チェック、一定回数以上の遅刻者に対し、保護者呼び出しなどの強い指導を行った。 3. メロディーチャイムを活用した「声かけ指導」が一定の効果あげている。 ・「メロディーチャイム」を活用した「ベル着」運動を継続した。 4. 生徒会執行部および教職員有志によるロッカー前あいさつ運動の継続実施 ・大学生ボランティア・インターシップ生も参加した生徒会執行部と教職員による朝のあいさつ運動を継続実施した。 5. クラブ活動活性化のため、教職員全員がクラブ顧問となり、生徒が活動しやすい環境を作った。 ・学校説明会において、体験入部を実施した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活指導部、生徒会部を中心に、教職員全体で引き続き粘り強い指導を続ける。 ・1, 2に関して保護者の理解と協力を得て進めていく。 ・4, 5に関して生徒会部を中心に、教職員および生徒が協力して引き続き取り組む。 |
| (3) 学校運営等 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 運営委員会をより活性化させ、学校全体の運営組織としての役割を果たすようにする。 2. 学年間の連携を強化するために学年主任連絡会の開催、情報の共有化、優れた取り組みの共有化、経験の共有化を進める。 3. 活力ある学校教育の確立をめざし、更に教職員組織、運営体制の見直し、改善を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> * 次年度教職員の分掌・担任割り当てを 校長による任命制とし運営委員会の機能の活性化を図った。 * 運営委員会とは別に学年主任連絡会を開き学年間の連絡・連携に努めた。 * “学力向上プロジェクトチーム”が中心となり、学習支援のための取組を積極的に推進した。 * “活力ある学校づくり”の一環として地域・PTA との連携強化を積極的に推進した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営の機能化・効率化のため、引き続き校内組織の見直しを行いたい。 ・“活力ある学校づくり”の活動をさらに推進したい。 |
| (4) 追加項目 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 中高連携の取り組みを実施推進する。 2. 本校教育活動取り組みの定期的情報発信をする。 3. 地域との交流を深め、本校の教育力向上のため、茨木西高校地域交流協議会の活動を強化する。 4. 学校協議会を充実させ、保護者、地域、大学関係者からの、本校教育に対する率直な意見を取り入れ、教育活動、教育環境の改善に生かす。 5. 地域へのボランティアや行事援助などを一層押し進めるとともに、地域の人材・施設を本校の教育や、クラブ活動に積極的に活用する。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 出前授業 (体育・新体操) を 11/10 西陵中学校 生徒対象に実施し好評を得た。 ● 延べ7日間の学校公開、5回の学校説明会を実施した。 ● 一時期途絶えていた中高連絡会を復活させ情報交換に努めた。 ● 生徒情報の交換、出前授業、部活動での合同練習などの中高連携の取り組みを実施する。 ● IBANISHI NEWS (延べ11号) の発行により地元・中学校などへ情報発信に努めた。 ● 学校公開 (6/15・16・17, 8/27, 10/30, 11/16, 17) 学校説明会 (8/27, 10/30) 第二地区合同説明会 (9/4) 中学校や塾における学校説明会 多数回を実施した。 ● 地域交流協議会を通じて、地域清掃活動 (5/3, 11/7) 地区体育祭 (穂積・春日丘とも 10/11) ふるさと祭 (穂積 7/24 春日丘 7/25) などへのクラブ生徒ボランティア参加、文化展への美術部を中心とした出展 (3/20) ● 地域交流協議会 (1回目 5/25 2回目 11/10) ● 年3回の学校協議会を実施した。 ● 地元 PTA (穂積小学校 PTA) と本校 PTA の連携・協力を押し進めた。 ● 12/23, 1/10 地区もちつきへの参加 | <ul style="list-style-type: none"> ・出前授業やクラブ活動を通じた地元小・中学校との交流、ふるさと祭などの協力による地元自治会との交流を引き続き進める。 ・引き続き学校からの情報発信に力を入れる。 ・次年度の出前授業は西陵中学校 (新体操)、穂積小学校・春日丘小学校 (理科) を実施したい。 |

4 学校教育自己診断における結果と分析

[平成 23年 1月 実施分]

*実施対象 (教職員 ・ 生徒 ・ 保護者)
回収率 教職員 51% 生徒 98% 保護者 54%

- 教職員** ・現状をおおむね肯定的に受け止めている
・教職員間の相互研修などの機会が取りにくく不足していることへの指摘。
- 生徒** ・学年進行に伴い卒業後の進路意識が高まり授業への関心も高くなっている。
- 保護者** ・おおむね肯定的な意見が多く、特に生活指導について一定の効果が上がっていることへの評価が高かった。

いずれのアンケートについても丁寧な記述による指摘・意見があった。個々の意見に回答はしていないがこれらの意見は職員会議で全教職員に提示した。学校として真摯に受け止め、今後の学校活動・経営に十分生かしていくことを確認した。

5 学校協議会における提言内容

*実施日 第1回 (H22.6.25) 第2回 (H22.12.7) 第3回 (H23.3.25)

*委員構成

荻田清 (梅花女子大学教授)、諫山隆 (穂積公民館館長)、奥邨彰一 (JICA大阪市民協力課課長)、西田清 (茨木市立西陵中学校校長)、安井喜一郎 (代々木セミナールシニアマネージャー)、美ノ上ゆかり (PTA会長)

*内 容

- 第1回 当日6時間目の授業見学実施。
学校の現状と今年度の経営方針について報告し、協議。
- 第2回 新教育課程の内容が注目されているので、特色を出す必要がある。
他校の学校説明会を見学すると参考になる。
卒業後の進路状況は、高校選択の大事な指標の一つになっている。
授業アンケート実施の後の分析改善が大切である。
- 第3回 本年度の学校評価報告書をもとに協議。
様々な取り組みを今後も進めて特色としていくのがよい。
今年度の志願者状況の分析を勧めるとともに、新入生への新たな対応が必要。